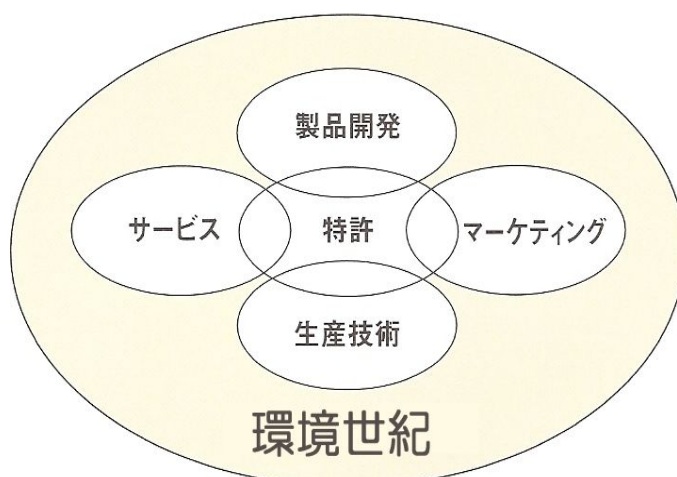


神奈川技術士会とは

2010/12/24 神奈川技術士会
設立発起人 三宅 勇次

神奈川県はベルリ提督上陸以来 150 余年、国内への西洋文明の受け入れの地として東洋と西洋文明を統合させる先端地域であった。西洋文明に追いつけ、追い越せで成長した我が国は約 20 年まえに「Japan as No.1」と言われ世界経済の先頭に立ったかの如き出来事があったが、世界 1 位になることもなく、世界経済における地位は低落し続けている。

世界 1 位を続けるには、新しい価値の創造を必要とするが、その例証は新しい価値と新ビジネス分野を創造したゲームやアニメなどが世界 1 位を続けていることから明らかであり、方や一時世界 1 位と言われた既存のビジネス分野での造船業が 1 位を陥落したことから、西洋文明の模倣と修正では 1 位を保持できないことが明らかとなった。



21 世紀の課題は地球環境の保全であり、価値の創造はそこで行う必要がある。新しい価値は特許に代表されるアイデアのみではなく、既存の販売を含む諸種の技術を周辺に統合することで実用化可能である。
左図参照

日本における技術は製造企業内で発展し、数多くの人材を育ててきたが、技術が私企業の内部に留まっている。技術士は技術の最高の国家資格であり、企業に属さない個人の資格である。個人の資格であるので、新しい価値と統合する時フレキシブルに統合可能である。

事業化に必要なのは、技術士の分野のみならず、法律、マーケティングなど各種の分野の個人専門家を必要とし、事業化の障害となる「死の谷」と「ダーウィンの海」を通過しなければならない。

21世紀になって急速に実用化したネット社会はWEB.2.0の時代になり現実的となった、ネット社会は情報の伝達が時間と距離を超えてできるので情報統合が安価かつ迅速に行われる。その特性からネット社会は一般道路の社会に対して高速道路社会ともいわれる。



"Unlocking the Future" (1998), L. Branscomb 講演証言 (2001), C. Wessner OECD 講演資料 より。